



あわ文化の魅力発見★通信

No.1



「あわ文化の魅力発見☆通信」では、「あわっ子文化大使」が、「私のまちの文化」というテーマで地域の文化財や史跡、お祭り、郷土料理などを紹介します。あわっ子文化大使目線で紹介していきますので楽しみにしてください。

「あわっ子文化大使」とは…
あわ文化を次世代に伝承するとともに、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信できる中学生のリーダー



個性光る「たらいうどん」

阿波市立土成中学校 2年 岩野 真子 さん

私の住む土成町の宮川内谷川という小さな川沿いの山道に、郷土料理である「たらいうどん」の店舗が建ち並んでいます。太くてこしの強い麺が、湯気が立つ大きなたらいに入れられ、家族や親戚、友達と囲んで楽しく食べるたらいうどんがわたしは大好きです。

かつて林業で栄えた我が町。仕事を終えた人々が労いの御馳走として大きなたらいを囲んで皆で食べていた特別な郷土料理です。

それぞれの店舗に個性があり、同じたらいうどんといえど、麺も出汁もさまざま、行く店ごとに発見があります。特に違が大きいのは出汁です。じんぞく(カワヨシノボリ)でとった出汁のお店もあれば、イリコ出汁のお店もあり、味わいも様々。溶き卵が入っている出汁もあります。たらいうどんは一店舗だけで味わうのではなく、何店舗か回るとさらに楽しめると思います。サイドメニューには、じんぞくやサワガニの唐揚げ、釜めしなど、家庭ではなかなか食べられない料理があります。

私も実際にたらいうどんを作ったことがあります、麺を切る作業がとても難しく、あの弾力を出すのは職人技だなと感じました。

とてもおいしく、季節の綺麗な景色を見ながら楽しめるたらいうどんをぜひ食べに土成町へお越しください。



4万本の春の祭典「北島チューリップフェア」

県立城ノ内中等教育学校 2年 赤澤 みのり さん

私の住む北島町では、毎年4月に「北島チューリップフェア」が開催されます。

皆さんは、チューリップは形や色で品種が分かれることを知っていましたか。

北島チューリップフェアでは、39種類、約4万本のチューリップが咲きほこっています。前年の冬に北島町が「球根植え付けボランティア」を募集するので、ボランティアとして参加すれば実際に自分が植え付けた球根が春に誇らしげに咲く姿を見ることもできます。

この北島チューリップフェアは、1995年に始まりました。実は過去に北島町は、年間約60万本のチューリップを栽培し、主に京阪神地域へ出荷することで、切花出荷量全国第3位を誇ったこともあります。

このように、北島チューリップフェアは、地域の文化と誇りを象徴するイベントです。この美しい花々が咲きほこる季節に、ぜひ北島町を訪れて春を感じるとともに、あなたの推しのチューリップを見つけてみてください。



私達の興源寺

徳島市徳島中学校 2年 板東 晴音 さん

私の母校である助任小学校の向かいには、広大な敷地に興源寺があります。助任小学校の児童は、総合的な学習の時間に興源寺を訪れ、寺の歴史について学びます。また、放課後には興源寺にある広場でバレーボールや、かくれんぼ、鬼ごっこをして遊ぶことも多く、私達にとって身近な場所です。

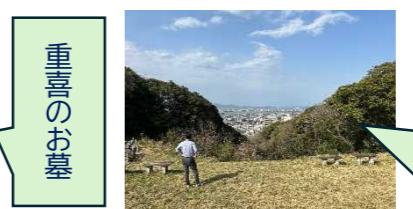
興源寺は、臨済宗妙心寺派に属す徳島藩主蜂須賀家の菩提寺です。蜂須賀家の家祖の正勝から13代藩主斎裕(なりひろ)までのお墓があります。中でも第二代藩主、忠英(ただてる)のお墓の高さは4.2mもあり、私達を見守ってくれているように感じます。なお、8代宗鎮(むねしげ)および10代重喜(しげよし)以降は佐古山町の万年山墓所に埋葬され、興源寺墓所には遺髪のみの拝み墓が置いてあります。2002年9月20日に国史跡として指定されました。

昔の蜂須賀家の栄華を感じられるとともに、今もみんなに親しまれ温かみを感じられる興源寺にぜひ訪れてみてください。



蜂須賀家のお墓

徳島中学校の板東晴音さんが「私達の興源寺」で、興源寺にある蜂須賀家のお墓について紹介してくれました。ここでは、万年山墓所について写真とともに紹介します。眉山の山中には蜂須賀家の歴代藩主やその家族のお墓が点在していて、万年山墓所を造営した10代重喜(しげよし)のお墓までは登り口から20分ほど山道を登ります。徳島市内を見渡せるひらけた場所に重喜のお墓はあります。



市内にこんな場所があったのかと驚くこと間違いなし!
みなさんもぜひ訪れ、蜂須賀家の歴史を感じてみてください。

